

受付月日	22年 9月 1日
------	-----------

平成23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
○	市民提案型協働事業

団体名 ひらつか市民活動連絡協議会

所在地 平塚市

事業担当課 協働推進課

代表者 原圃 信夫

担当者 市民協働担当 小嶋

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

①事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化
②事業提案内容	<p>市民活動の活性化のために、「市民活動団体の意見集約」「団体間の連携強化」「活動拠点としての相談機能の強化」の3つを目的として次の事業を実施。</p> <p>1. アンケートの実施(5月) 市民活動団体と自治会にアンケートを取り、各団体の意見集約や求めることを探り、連携強化と新しいまちづくり活性化案(今後の方向性)を作成する。</p> <p>2. まちづくりフォーラム(7月)と講演会(11月)の開催 アンケートの分析結果を活かし、講演会・交流会・分野別部会の3部形式でフォーラムを開催し、活動参加や団体連携のきっかけとする。講演会は、神戸市の市民活動の連携やコミュニティとの連携など、先進事例を学べる講師を検討。交流会・分野別部会では、参加団体の意見集約・情報交換・ネットワーク作りを行う。また、11月にも関連したテーマで講演会を開催する。</p> <p>3. 市民活動センターまつりでの相談機能の強化(9月) センターまつり実行委員会と連携し、まつりが活動の紹介やバザーなどだけではなく、市民活動団体が相談を受けられるような相談機能の強化を検討。</p> <p>4. 分野別グループ部会(9～3月、各分野年4回) アンケートやフォーラム(講演会・交流会)を活かし、防災・環境・福祉・まちづくりの各分野のグループを作り、分野ごとに各団体が連携して平塚の課題解決やサービスの提供などを行う活動計画の作成と一部の実施。</p> <p>5. 報告誌の作成と発行(3月) アンケートの分析結果、フォーラムの報告、各分野の活動計画などをまとめた報告誌の発行をする。</p>
②-2 成果目標 (目標値)	<p>防災のまち、福祉のまち、環境のまちとして、市民が住みよいまちとして平塚らしさが展開できるよう、今まで無かった市民活動団体間や自治会と情報共有・連携して活動を行うことにより、市民に対して、各市民活動団体が得意分野を活かした、より良いサービスの提供や相談機能の強化へつなげていく。</p> <p>目標値：連携に参加した市民活動団体数 30団体</p>
成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。	

事業担当課との意見交換の結果をもとに、具体的に詳しく記入してください。

<p>③事業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>1. アンケートの実施 ※ひらつか自治体財政研究会と連携して実施 4月 アンケート企画(質問内容)・作成 スタッフ2名 5月 発送・回収 6月 集計・分析 スタッフ2名</p> <p>2. まちづくりフォーラムと講演会の開催 ①フォーラム(講演会・交流会・分野別部会の3部形式) 6～7月 フォーラム企画会議 スタッフ4名 7月 開催日の運営(設営・受付・司会・雑務) スタッフ6名 ②講演会 10～11月 講演会企画会議 スタッフ4名 11月 開催日の運営(設営・受付・司会・雑務) スタッフ6名</p> <p>3. 市民活動センターまつりでの相談機能の強化 4～9月 センターまつり実行委員会との協議・連携</p> <p>4. 分野別グループ部会 7～9月 分野別企画会議 スタッフ4名、各分野の代表者2名 9～3月 グループ部会の開催(分野ごとに年4回開催)</p> <p>5. 報告誌の作成と発行 1～3月 まとめ会議(成果・報告誌の編集) スタッフ4名、各分野代表2名</p>
<p>④確認できた役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ アンケートの企画、作成、集計、分析 ▪ 実施事業に関する広報(チラシ、ポスターの作成) ▪ まちづくりフォーラム、講演会、分野別グループ部会等の企画、開催、運営 ▪ 市民活動団体間の連絡、協議、調整 ▪ センターまつり実行委員会との協議、連携 ▪ 報告誌の原稿作成 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 情報提供(市の施策やセンター登録団体情報など、公開できるもの) ▪ アンケートの発送 ▪ まちづくりフォーラム、講演会、分野別グループ部会等の会場確保 ▪ 実施事業に関する広報の協力(広報紙掲載、チラシ配架、ポスター掲示) ▪ 報告誌の印刷 ▪ その他、実施事業に関する補助、協力、助言など
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<p>1、次年度以降も双方で実施</p> <p>2、団体が単独で実施</p> <p>3、行政が単独で実施</p> <p>4、事業は今年度のみ予定</p> <p>5、その他 ()</p> <p>※実施した事業の成果を踏まえ、内容を発展させ、次年度以降も協働で実施したい。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカシシカツドウレンラクキョウギカイ			
	ひらつか市民活動連絡協議会			
②所在地・ ホームページ	〒254ー 平塚市 ホームページアドレス http://heartland.geocities.jp/calc_hiratsuka/			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 横田 裕 (役職 副会長) 電 話 F A X e-mail 住 所 平塚市			
④設立年月	2005年 2月 (法人格取得年月 年 月)			
⑤会員の状況	個人=.....人 (うち平塚市民.....人) 団体= 17 団体 (平塚市内)			
⑥活動内容・ 活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体の連携、協力体制の確立 ・要援護者支援フォーラムの開催、イベントの開催 ・障害者団体要援護者支援アンケートの実施 ・ひらつか市民活動センターまつり協力 			
⑥-2 協働事業と の関わり	<input type="checkbox"/> 新たな活動 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 同規模)			
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間= 平成21年4月 ~平成22年3月			
⑧前年度の 決算状況		項 目	金額 (円)	内 訳
	収 入	前年度繰越	26,545	(会費 1,000 円×17 団体)
		会費	17,000	
		合 計	43,545	
	支 出	総会費	1,360	(資料郵送料)
		事務用品代	1,484	(封筒、その他)
印刷費		6,870	(会議資料 印刷費)	
次年度繰越		33,831		
	合 計	43,545		

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	387,900 円
市の支出分	370,900 円
団体負担分（他の収入等）	17,000 円

①収入

金額：単位円

項 目	予算額	内 容
市の支出	C 370,900	①負担金 270,900 円、②報償費 100,000 円
会費収入	17,000	平成 23 年度の団体会費より、事業の人件費の一部に充てる
事業収入		
収入合計	A 387,900	

②支出

項 目	予算額	うち市の支出分	具体的な内容
通信費	46,800	① 46,800	アンケート返信用切手（市民活動 350、自治会 235） @80 円×585 団体=46,800 円
謝礼	100,000	② 100,000	フォーラム（7月）講師謝礼 60,000 円（謝礼 40,000 円+交通費 20,000 円） 講演会（11月）講師謝礼 40,000 円
人件費	214,400	① 197,400	現在の活動に加え、新たな事業に取り組むための人件費 アンケート企画・作成 800 円×4H×スタッフ 2 人×2 日=12,800 円 アンケート集計・分析 800 円×8H×スタッフ 2 人×3 日=38,400 円 フォーラム企画 800 円×3H×スタッフ 4 人×2 日=19,200 円 フォーラム運営（設営・受付・司会・雑務） 800 円×5H×スタッフ 6 人×1 日=24,000 円 講演会企画 800 円×3H×スタッフ 4 人×1 日=9,600 円 講演会運営（設営・受付・司会・雑務） 800 円×3H×スタッフ 6 人×1 日=14,400 円 分野別グループ部会企画 800 円×2H×6 人（スタッフ 4 人、分野代表 2 人） ×1 日×4 分野=38,400 円 成果まとめ・報告誌企画 800 円×4H×12 人（スタッフ 4 人、各分野代表 8 人） ×1 日=38,400 円 報告誌編集・作成 800 円×4H×スタッフ 2 人×3 日=19,200 円
印刷製本費	3,500	① 3,500	資料等の製版代 @100 円×25 回=2,500 円 印刷・コピー代 @10 円×100 回=1,000 円
消耗品費	23,200	① 23,200	チラシ用色紙 A3 @6,500 円×2 箱（1,000 枚/箱）=13,000 円 資料用コピー用紙 A4 @1,500 円×2 箱（2,500 枚/箱）=3,000 円 プリンタインク代 @1,800 円×4 本=7,200 円
支出合計	B 387,900	D 370,900	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

平成 23年度 実施「事業」提案書

<input type="checkbox"/>	行政提案型協働事業
<input checked="" type="checkbox"/>	市民提案型協働事業

団体名 ひらつか自治体財政研究会
 所在地 平塚市 事業担当課 協働推進課
 代表者 井上 駿 担当者 池澤 弘

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

①事業名	協働事業の情報発信
②事業提案内容 「企画提案書」の「②企画提案の概要」を、より具体的に詳しく記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ○協働情報紙の発行・配布 市民協働による自治運営を推進するため、市民協働の取り組みを広く市民に周知することで、市民の理解を深め、またまちづくりの参加の機運を高めることを目的として、市民協働の取り組みに関する協働情報紙の制作・発行・配布業務、およびホームページで情報発信を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業に参画する市民活動団体および地域活動（自治会等）を紹介することで、市民協働をより身近なものに感じてもらう。 ・協働事業の紹介・広報紙（A4・4ページ2つ折り両面カラー）の2回作成、市民活動団体、行政へ配布する。自治会へ回覧する。 ・協働情報紙に記載できないより詳しいデータを、ホームページに公開する。 ○市民活動団体や行政へのアンケート実施 <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業を取組中の、市民活動団体や行政へのアンケート（協働への取組状況や協働の問題点などを抽出し、協働座談会での討論や協働情報紙などで報告する） ・行政へのアンケート(行政は協働をどのように考え取組まれているか、市民と協働したいテーマは何かなどを抽出し、次の座談会へ繋げる) ・市民活動団体へのアンケート（協働に対する取組を引き出すため、関心程度の調査から次の座談会や声掛けに繋げる。 ○協働座談会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業に取組中に発生した問題の抽出、課題への取組み、進捗状況などを共有し対応を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体の協働座談会(市民活動団体間で情報の共有を図る) ・市民活動団体と行政との協働座談会(事業毎の問題などを協働全体で共有する) ・まちづくり問題を、市民と行政職員とで討論し、協働のヒントを探し、互いに理解を深める。（10人程度の少人数で） <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体と行政との協働座談会(平塚のまちの課題を、行政と) ○協働事例を説明会などで紹介 協働募集の説明会やNPOの講座などで、協働事例等を紹介し協働への参加を呼びかける。
②-2 成果目標(目標値) 成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・協働事例の紹介や、協働座談会で行政との対話するなど、協働への取組み方を知る市民を増やし、まちの問題解決へ参画する市民を増やす。 ・市民提案型協働事業に参加する市民活動団体を、平成22年度の6団体から増加させる。 <p>（目標値：市民提案型協働事業に参加する団体が10団体以上を目指す）</p>

事業担当課との意見交換の結果をもとに、具体的に詳しく記入してください。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカジチタイザセイケンキュウカイ			
	ひらつか自治体財政研究会			
②所在地・ ホームページ	〒 254 - 平塚市			
	ホームページアドレス http://hira.saisei.googlepages.com/home			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 坂本著法 (役職 代表幹事)			
	電話 (連絡可能な時間帯)			
	FAX e-mail			
	住所 平塚市			
④設立年月	2006 年 6 月 (法人格取得年月 年 月)			
⑤会員の状況	個人 = 19 人 (うち平塚市民 18 人) 団体 = 0 団体			
⑥活動内容・ 活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の財政内容は分かり難く、“広報ひらつか” も分かりにくいので、学習会や定例会で自治体の財政分析、自治体情報の入手・分析等を行い、自治体の財政・まちづくりは如何にあるべきかを討論し広報活動を行っている。 平成20年12月ごみ焼却炉新規大型化建設に対し、署名運動を行い市議会宛に請願書を3251筆提出する。 平成21年3月財政白書(その1)「気になるところ、調べました・・・私たちの税金は、何にどう使われているの?・・・」を発行。 平成22年3月財政白書(その2)「平塚市民の目線で作った2冊目のまちづくり財政白書」を発行。 平成22年度は、財政白書(その3)作成、まちづくり情報を発信する小冊子「財政白書ミニ版」の発行など取組中(財政白書ミニ版は、22年8月に2号発行) 			
⑥-2 協働事業との 関わり	<input type="checkbox"/> 新たな活動 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 開規模)			
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間 = H21 年 4 月 ~ H22 年 3 月 (または見込み)			
⑧前年度の 決算状況		項目	金額(円)	内 訳
	収入	会費	39,630	会費 2,000 円 x 19 人 + 寄付など
		白書販売	201,140	単価 500 円約 400 部販売、
		市民活動ファン ド	200,000	
		合計	440,770	
	支出	白書印刷	294,480	白書 1 号 200 部追加、白書 2 号 500 部
コピー・通信 等経費等		44,282	勉強会資料印刷費用、通信等費用	
講師謝礼金		53,000	大和田先生講演 2 回分	
次年度へ繰越		49,008		
	合計	440,770		

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	509,000	円
市からの支出	457,800	円
団体負担分（他の収入等）	51,200	円

①収入

金額：単位円

項目	予算額	内容
市からの支出	C 457,800	
会からの支出	51,200	
事業収入		
収入合計	A 509,000	

②支出

項目	予算額	うち市からの支出	具体的な内容
協働情報紙作成 人件費	204,800	153,600	*企画案検討・作成 8H×2人×2日×800=25,600 編集会議 2H×3人×4回×800=19,200 取材・写真撮影 2H×2人×2回×800=6,400 原稿作成 8H×4本×800=25,600(4本の原稿作成) 広報紙作成・修正 8H×2人×2回×800=25,600 以上1回当たりの作成費用：合計：102,400 2回発行する。合計：102,400×2回=204,800 *印分は団体負担分：25,600×2回=51,200 市負担分：204,800-51,200=153,600
協働情報紙 印刷費等	152,000	152,000	4ページ、A4版、カラー、12、500部、 76,000円×2回 市民活動センター500部、行政500部、 公民館その他500部、自治会回覧用11,000部
アンケート 人件費	76,800	76,800	企画・作成(市民団体向け) 8H×2人×800=12,800 行政向け・資料作成・打合せ16H×2人×800=25,600 集計・分析 8H×2人×2日×800=25,600 報告まとめ 8H×2人×800=12,800
協働座談会開催 人件費	64,000	64,000	協働座談会開催 準備・報告等 8H×2人×5回×800=64,000
事務消耗品費等	5,000	5,000	アンケート・広報紙など作成時に使用分 用紙 A4、2500枚、2500円 プリンターインク 等
HP用資料作成 人件費	6,400	6,400	8H×800=6,400
支出合計	B 509,000	D 457,800	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市からの負担金 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

受付月日	22年10月13日
------	-----------

平成 23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
○	市民提案型協働事業

団体名 ひらつか自治体財政研究会

所在地 平塚市 事業担当課 財政課 指導室

代表者 井上 駿 担当者 中里 相原

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

①事業名	小学生向け財政パンフレットの作成
②事業提案内容 「企画提案書」の「②企画提案の概要」を、より具体的に詳しく記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> 小学生向けに、平塚市の財政を紹介した数ページのパンフレットを作成し、社会科の授業用として提供する。 教師の指導用として、説明資料を作成する。 自治体の財政内容は分かりにくい、まちづくりの基礎であるため、予算がどのように計画され使われるか、財政とはなになのかを知ってもらいたい。 授業でより多くの生徒に使われるよう、パンフレットの内容検討や作成したパンフレットの説明などに、先生方の知恵を借りて作成し、実際に授業で使ってもらえるよう説明を行う。
②-2 成果目標 (目標値) 成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の1～2時間の授業で用いられる、A4版4ページ程度とする。 教師用の説明資料として、16～20ページ程度とする。 必要に応じ、年度毎に数値を入替える。 <p>(目標値：小学生に分かってもらえる財政パンフレットを目指す)</p>

事業担当課との意見交換の結果をもとに、具体的に詳しく記入してください。

<p>③事業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政課が持つ平塚市の財政情報を、小学生向けにどのように提供するか、指導室と検討しパンフレットにまとめる。 ・ 平成 22 年度決算が発表される 11 月～12 月頃に作成する。
<p>④確認できた役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に使用出来る、財政パンフレットを作成する。 ・ 小学生に理解してほしい財政情報は何か、どのような内容を記載するか洗い出しを行う。(団体が考える内容と市で考える内容を、編集会議などで団体と市とで調整する) ・ 小学生が授業で理解できるよう、デザインや用語などに工夫を凝らして、分かりやすく見やすいパンフレットを作成する。 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政の基本的な情報を準備・提供する。 ・ 小学生に理解してほしい財政情報は何か、どのような内容を記載するか洗い出しを行う。 ・ 社会科の先生方と、用語、表現内容などを検討する。
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<p>1 次年度以降も双方で実施</p> <p>2 団体が単独で実施</p> <p>3 行政が単独で実施</p> <p>4 事業は今年度のみ予定</p> <p>5 その他 ()</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカジチタイザセイケンキュウカイ			
	ひらつか自治体財政研究会			
②所在地・ ホームページ	〒 254 - 平塚市			
	ホームページアドレス http://hira.saisei.googlepages.com/home			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 坂本著法 (役職 代表幹事)			
	電話 (連絡可能な時間帯)			
	FAX		e-mail	
	住所 平塚市			
④設立年月	2006 年 6 月 (法人格取得年月 年 月)			
⑤会員の状況	個人 = 19 人 (うち平塚市民 18 人) 団体 = 0 団体			
⑥活動内容・ 活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の財政内容は分かり難く、“広報ひらつか” も分かりにくいので、学習会や定例会で自治体の財政分析、自治体情報の入手・分析等を行い、自治体の財政・まちづくりは如何にあるべきかを討論し広報活動を行っている。 平成20年12月ごみ焼却炉新規大型化建設に対し、署名運動を行い市議会宛に請願書を3251筆提出する。 平成21年3月財政白書(その1)「気になるところ、調べました・・・私たちの税金は、何にどう使われているの?・・・」を発行。 平成22年3月財政白書(その2)「平塚市民の目線で作った2冊目のまちづくり財政白書」を発行。 平成22年度は、財政白書(その3)発行、まちづくり情報を発信する小冊子財政白書ミニ版の発行などに取り組み中(財政白書ミニ版は、22年8月に2号を発行) 			
⑥-2 協働事業との 関わり	<input type="checkbox"/> 新たな活動 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 同規模)			
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間 = H21 年 4 月 ~ H22 年 3 月 (または見込み)			
⑧前年度の 決算状況		項目	金額(円)	内 訳
	収入	会費	39,630	会費 2,000 円 x 19 人 + 寄付など 単価 500 円約 400 部販売、
		白書販売	201,140	
		市民活動ファン	200,000	
		合計	440,770	
	支出	白書印刷	294,480	白書1号200部追加、白書2号500部 勉強会資料印刷費用、通信等費用 大和田先生講演2回分
コピー・通信 等経費等		44,282		
講師謝礼金		53,000		
次年度へ繰越		49,008		
	合計	440,770		

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	214,400	円
市からの支出	169,600	円
団体負担分（他の収入等）	44,800	円

①収入

金額：単位円

項 目	予算額	内 容
市からの支出	C 169,600	
会からの支出	44,800	
事業収入		
収入合計	A 214,400	

②支出

項 目	予算額	うち市からの支出	具体的な内容
財政パソコン 人件費	128,000	96,000	*企画案検討・作成 8H×5人×800=32,000 データ整理・分析 4H×4人×800=12,800 原稿作成 4H×10本×800=32,000 編集会議 2H×4人×4回=25,600 パンフレット作成・修正 8H×2人×2回×800=25,600 [合計：128,000] 団体負担分（*印）：32,000 市負担分：128,000-32,000=96,000
印刷費等	23,000	23,000	A4 仕上がり4ページ・二つ折り、カラー、2,500部
教師用資料 人件費	38,400	25,600	*企画案検討・作成 8H×2人×800=12,800 教師用資料作成 8H×2人×800=12,800 編集会議 2H×4人×2回×800=12,800 [合計 38,400] 団体負担分（*印）：12,800 市負担分：38,400-12,800=25,600 資料等は、パンフレット作成で検討した分を流用。
印刷費等	20,000	20,000	20ページ、A4判、モノクロ、100部
事務消耗品費等	5,000	5,000	作成時に使用 用紙A4、2,500枚、2,500円 プリンターインクなど
支出合計	B 214,400	D 169,600	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市からの負担金 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

平成23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
○	市民提案型協働事業

団体名 平塚のら猫を減らす会

所在地 平塚市 事業担当課 環境政策課

代表者 小山 昇 担当者 林 隆一

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

①事業名	「地域猫」への取り組み
<p>②事業提案内容</p> <p>「企画提案書」の「②企画提案の概要」を、より具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>「企画提案の概要」で提案した本事業は、のら猫問題解決だけでなく、のら猫を通じて地域コミュニティの活性化を図るまちづくり活動である。</p> <p>①「地域猫」とは のら猫をエサの管理、不妊去勢手術の徹底、フンの清掃、周辺美化など地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、のら猫の数を増やさないで一代限りの生を全うさせることで地域住民の認知を得られた猫のことである。</p> <p><地域のルール></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エサやりの時間・場所を決め、後始末を必ずする。 2. エサ場周辺に猫用トイレを設置し、清掃をこまめにする。 3. 不妊・去勢手術を徹底する。 4. 地域内で話し合いを重ね、世話に対する住民の理解を得ること。 5. 飼育責任者を明確にし、地域で責任を持つこと。 <p>②数年前に、NHKによる「ご近所の底力」という番組が「地域猫」による「のら猫問題解決法」をテーマにした放送を行った。内容としては、のら猫を地域の合意のもとで不妊・去勢手術・糞尿の清掃・エサの管理等を行い、猫を嫌いな人・好きな人・無関心な人が地域の問題として関わり、地域のコミュニティの構築を図る事例であった。この番組を参考に、「地域猫」活動を通じて、希薄になった地域のコミュニティの再構築を目指していく。</p> <p>③「地域猫」には二つの活動方法がある。「自治会ぐるみ」で行う場合と3人以上のグループでリーダーを決めて自分達で管理できるのら猫のみ行う方法である。いずれも自治会・町内会の承認を得て取り組む必要がある。</p> <p>④「地域猫」活動の定着を図るため、行政との連携を強化してお互い役割を明確にして責務を果していく。又、固有の法律を持たない、のら猫問題を学習するため関係者の講習会、専門講師の講演会等を行う。</p>

<p>②-2 成果目標 (目標値)</p> <p>成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。</p>	<p><「地域猫」の取り組み目標> <u>のら猫をゼロにするのではなく、トラブルをゼロにする</u></p> <p>①平塚市内に生息するのら猫の匹数は把握できないが、住宅街・商店街・公園・河川敷・神社・倉庫等で繁殖を繰り返している現状がある。 そのなかで、被害・トラブル地域を当面 10 地区選び、随時拡大していく。 「自治会ぐるみでの取り組み」 5 地区 「グループによる取り組み」 5 地区</p> <p>②「平塚のら猫を減らす会」で「地域猫」を応援するチーム（「地域猫推進メンバー」）を結成する。メンバーは 15 名とし、自治会・町内会の要請に応じルールづくりや「地域猫」のノウハウを指導していく。</p> <p>③「地域猫」活動を進めながら、本質の解りにくい分野であるのら猫問題を正しく理解し共有していくため、地域猫の発案者である黒澤 泰氏（『「地域猫」のすすめ』の著者）の講演会を開催（年 3 回予定）。その他必要に応じ学習会を開催する。</p> <p><「地域猫」活動によって得られる成果></p> <p>①不妊・去勢手術を徹底することで、猫が増えない、鳴き声やケンカが減少する。</p> <p>②決められた場所でエサを与えることによって、ゴミを漁られなくなる。</p> <p>③フン等の清掃を通じて、街の美化に貢献できる。</p> <p>④猫を通じて住民同士のコミュニケーションが活発になる。</p> <p>⑤生命の大切さを子どもたちに伝えることにつながる。</p>
<p>③事業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>のら猫問題は「地域以外では解決できない」テーマである。それは、飼い猫が地域で捨てられ増え続け、地域が被害に遭っている現状を踏まえ、地域の問題として捉えるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の合意のもとで不妊・去勢手術・糞尿の清掃・エサの管理等を行い、猫を嫌いな人・好きな人・無関心な人が地域の問題として関わり、地域のコミュニティの構築を図る。 『「地域猫」のすすめ』著者・黒澤 泰氏の講演会等を開催する。（年 3 回予定） 「地域猫推進メンバー 15 人」を地域に派遣して地域住民に対してアドバイスと指導を行う。 「地域猫」管理の地区の選定、自治会との打ち合わせと担当者選定。 定着化のための、関係者との話し合い・情報交換・講習会の実施。

<p>④確認できた 役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <p>のら猫の不妊去勢手術を「推進メンバー」がアドバイスと技術指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のら猫のトイレの設置・エサ場の管理等の「地域猫」運営上のアドバイスと設置作業の手伝い等。 ・ 「地域猫」の講習会・連絡打ち合わせ会議・情報の提供。 ・ 行政・自治会、町内会・関係者等に協働を推進する提言。 ・ ウンチパトロールを地域の関係者と協働で実施。 ・ 地域での活動状況を地域内に報告。 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自治会へ地域の環境改善と、まちづくりとしての問題提起をして「地域猫」の啓発を進める。 ・ 情報活動を進めていく事で「動物愛護法」と「地域猫」の定着を図る。 ・ 「地域猫」を進める上で必要な機材の購入等の資金の提供。 ・ 広報活動（メディア）を通じて市民への問題提起と理解を深める。 ・ スムーズな事業進行やトラブル等の際の調整。
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<p>①、次年度以降も双方で実施</p> <p>2、団体が単独で実施</p> <p>3、行政が単独で実施</p> <p>4、事業は今年度のみ予定</p> <p>5、その他()</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒラツカノラネコヲヘラスカイ
	平塚のら猫を減らす会
②所在地・ ホームページ	〒254 - 平塚市..... ホームページアドレス http://
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 小山 昇.....(役職 代表...) 電 話.....(連絡可能な時間帯.....) F A X.....e-mail : 住所.....平塚市.....
④設立年月	平成 14 年 10 月 (法人格取得年月 年 月)
⑤会員の状況	個人 = 70.....人 (うち平塚市民 65.....人) 団体 = 0.....団体
⑥活動内容・ 活動実績	「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づき、猫の適切な飼養を普及啓発をし、のら猫・捨て猫の増加防止を図る、T.N.R活動（捕獲・不妊手術・元に戻す）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不妊去勢手術実施数（累計）約 3,500 匹以上。 ・ 平成 22 年 5 月現在・毎月定例会開催。 ・ 不妊手術への資金活動、年間 12 回以上のバザー開催・会報の発行。 ・ 猫の里親譲渡活動。インターネット等を活用・各地の里親会に参加。 ・ のら猫被害の軽減・環境改善・地域が抱える、のら猫トラブルへの対応。 ・ 平成 18 年「猫の不妊去勢手術に補助金制度」を 4,832 名の署名を市長へ。 ・ 平成 19 年平塚市は「猫の不妊去勢手術へ補助金制度」を開始。 ・ 「まちづくり」としての、のら猫活動「地域猫」の取り組みを提言。
⑥-2 協働事業と の関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな活動 <input type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 同規模)

⑦前年度の 決算期間		前年度決算期間＝ 平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日		
⑧前年度の 決算状況		項 目	金額（円）	内 訳
	収 入	前年度繰越金	863,008	
		会費	198,000	会員数 66 名分
		寄付等	475,163	募金 103,423 円 寄付 371,740 円
		バザー	967,576	まちかど広場 10 回、市民活動センター1 回、 日産車体 1 回
	合 計		2,503,747	
	支 出	不妊去勢手術費	310,500	合計 296 匹（平成 21 年度）
		治療費	298,915	負傷猫の治療
		里親活動費	173,464	47 匹の猫を里親に譲渡
		給餌補助費	347,119	餌代（のら猫を人に慣らし、手術を受けやすくする）
車両運搬費		103,000	病院への搬送に伴うガソリン代	
広報活動費		57,649	会報作成費用・郵送料	
通信費		115,538	会保有の携帯電話 2 台分	
バザー関連費		49,931	会場使用料等	
雑費	55,987	協力獣医・他団体への支援金等		
翌年度繰越金	991,644	補助金制度の廃止などを想定したもの		
合 計		2,503,747		

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	409,000 円
市の支出分	290,000 円
団体負担分（他の収入等）	119,000 円

①収入

金額：単位 円

項 目	予算額	内 容
市の支出	C 290,000 円	①負担金 ②報償費
事業収入	119,000 円	バザー等の収益
収入合計	A 409,000 円	

②支出

項 目	予算額	うち市の支出分	具体的な内容
捕獲器	140,000 円	① 140,000 円	14,000 円×10 器
講演会講師料	45,000 円	② 30,000 円	年 3 回実施予定（2 回は市主催、1 回は会主催） （1 回につき、15,000 円を計上）
地域猫のすすめ	24,000 円	0 円	『「地域猫」のすすめ』一冊 1,200 円×20 冊 『「地域猫」のすすめ』著者：黒澤泰氏の講演料 各自治会責任者に配付し、地域猫の基本を学習 してもらうための教材
人件費	120,000 円	① 120,000 円	800 円×2H=1,600 円×5 回=8,000 円×15 名 地域への定着を図るため、猫のトイレの設置 や、周辺美化、公園等のウンチパトロール等で 1 回につき約 2 時間の業務が必要となってくる。 定着化には現場での指導が必要な目安が 5 回で ある。 15 名については、減らす会会員の中から既に 「地域猫」推進メンバーとして 15 人を選定し ており、地域へ出張して定着化を図る役目を果 たすためである。 推進メンバーを含め、会員は仕事の合間を縫っ て活動しており、地域から依頼があった場合は のら猫問題を優先にして地域に赴くため、本職 等の時間を割く対価として人件費を計上した。
その他経費	80,000 円	0 円	広報・印刷・その他
支出合計	B 409,000 円	D 290,000 円	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市からの負担金 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

受付月日	22年 9月 22日
------	------------

平成23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
✓	市民提案型協働事業

団体名 ごみを活かす会

所在地 平塚市 事業担当課 資源循環課

代表者 永山 寿子 担当者 土屋

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

①事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業
②事業提案内容 「企画提案書」の「②企画提案の概要」を、より具体的に詳しく記入してください。	<p>生ごみ処理相談員養成講座</p> <p>全8日の講座を開催し30名の相談員を養成する。講座の内容は基礎講座2日、実技講座4日、現地見学2日とする。基礎講座の内容は①平塚市のごみ処理の現状と課題、②生ごみ処理における微生物の役割とし、実技講座の内容は①コンポスター法、電動生ごみ処理機法、②土穴法、プランター法、段ボール・腐葉土・米ぬか法、③EM菌法、バチルス菌法、④フォローアップ講座、現地見学は、①平塚市ごみ処理施設見学、②企業等における生ごみ処理機の見学を予定している。</p>
②-2 成果目標 (目標値) 成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。	<p>①初年目より3年目にかけて生ごみ処理相談員を90名養成する。</p> <p>②生ごみ処理相談員は地元住民の質問に答えて、各家庭における生ごみ処理を支援し、現在3%と推定される自家処理家庭を10%まで増やす。</p> <p>③生ごみ処理相談員は自治会／町内会などの団体での生ごみ処理を支援し、3年目には市内における団体処理か所を10か所に増やすことも目標とする。</p> <p>(目標値：10年後には生ごみを自家処理または地元集団処理を行い、燃やす生ごみの量を現状の半分程度にする。これが成功すれば概算で毎日28万円のごみ焼却経費を節減することになる)</p>

事業担当課との意見交換の結果をもとに、具体的に詳しく記入してください。

<p>③事業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>4、5月 準備期間</p> <p>6月 基礎講座①②、現地見学①(人員:受講者 30+ごみを活かす会 2名、資源循環課職員 2名)</p> <p>7月 実技講座①②③④(人員同上)</p> <p>9月 現地見学②</p> <p>10月 フォローアップ</p> <p>11月</p> <p>まとめの討論会と修了式(相談員証・表札授与)</p> <p>人員:市長、環境部長、環境部担当者 ごみを活かす会 可能な限り全員</p>
<p>④確認できた役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講師折衝 2. 会場、資材準備 3. 講習会運営 <p>(市の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業の運営についてごみを活かす会と対等協力する。 2. 必要資料の印刷
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、次年度以降も双方で実施 2、団体が単独で実施 3、行政が単独で実施 4、事業は今年度のみ予定 5、その他()

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ゴミリユカイ			
	ごみを活かす会			
②所在地・ ホームページ	〒254- 平塚市			
	ホームページアドレス http://			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 井上 駿 (役職)			
	電 話 (連絡可能な時間帯)			
	F A X e-mail			
	住 所 254- 平塚市			
④設立年月	平成 18 年 11 月 (法人格取得年月 年 月)			
⑤会員の状況	個人=7.....人 (うち平塚市民 7.....人) 団体=0.....団体			
⑥活動内容・ 活動実績	学習会の実施 バチルス菌による生ごみ処理、EM 菌による生ごみ処理、野菜はどこまで安全か 市主催・緑化祭りに参加、同環境フェアに参加 環境ファンクラブ出前講座 金目小学校にて生ごみ堆肥化実演 冊子「家庭でできる生ごみの堆肥化」発行			
	⑥-2 協働事業と の関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな活動 <input type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 同規模)		
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間=平成 21 年 1 月 ~22 年 3 月 (または見込み)			
⑧前年度の 決算状況		項 目	金額 (円)	内 訳
	収 入	前期より繰越会 費	34,685	会員 7 名 学習会 3 回、延べ参加人数 42 名 3 件 市民活動ファンドによる助成
		学習会参加費	7,000	
		寄付	14,100	
		市助成金	8,731	
		合 計	70,000	
	支 出	印刷費	91,502	冊子「家庭でできる生ごみの堆肥化」350 部 学習会 3 回 講師駐車料金等 切手代他
		講師謝礼交通費	29,181	
		雑費	10,390	
		通信費	610	
次期への繰越		2,833		
合 計	134,516			

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	296,200円
市の支出分	291,200円
団体負担分（他の収入等）	5,000円

①収入

金額：単位円

項 目	予算額	内 容
市の支出	291,200 ^C	①負担金 ②報償費
会費収入	5,000	
事業収入		
収入合計	296,200 ^A	

②支出

項 目	予算額	うち市の支出分	具体的な内容
謝礼	65,000	② 65,000	①大学講師謝礼 30,000（交通費含む） ②その他講師謝礼 35,000（交通費含む）
謝礼	10,000	① 10,000	③自家用車に対する謝礼 10,000（ガソリン代等相当分）
人件費	51,200	① 51,200	①会場設営・準備@800円×32h×2名=51,200
事務用品費	100,000	① 100,000	用紙代@1250×4箱=5,000 プリンターインク代@1,300×5=7,500 封筒 @200(20枚入り)×10=2,000 他 相談員表札作成費 2,000×30名=60,000 テキスト作成費@500×40=20,000
通信費	20,000	① 15,000	事務担当者電話料等 20,000
使用料	50,000	① 50,000	マイクロバス借上げ料
支出合計	296,200 ^B	291,200 ^D	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市からの負担金 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

22/11/8 更新

平成23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
○	市民提案型協働事業

団体名 土屋里地里山再生グループ 所在地 神奈川県平塚市

代表者 原 安雄

事業担当課 農水産課、みどり公園・水辺課、農業委員会、土木調整課、土木総務課（第1回意見交換会のみ出席）、開発指導課、まちづくり政策課、環境政策課（主管課）の8課

担当者 土木調整課 高橋富治課長代理、開発指導課 山本三郎課長代理、土木総務課 石井雅之主査、農水産課 川嶋栄作主管、橋本雅澄主査、根本健治主査、農業委員会 川口守課長代理、環境政策課 谷屋隆主管 まちづくり政策課 小林 岳課長代理、川嶋 隆史主査 みどり公園・水辺課 大田 浩課長代理

① 事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(グラウンドワークの推進)
②—1 事業提案内容 「企画提案書」の「②企画提案の概要」を、より具体的に詳しく記入してください。	<p>私たちの活動フィールドがある平塚市西部丘陵地域は、市内で最も豊かな自然が残る地域であるが、農林業従事者の高齢化が進み、後継者不足により谷戸の山林・農地は40年以上も人の手が入らず放置され荒廃している。</p> <p>かつて里山は、クヌギやコナラの薪や落ち葉が、燃料や堆肥として人々に利活用され、集落の暮らしと密接に結びついていた。</p> <p>しかし、昭和30年代後半から人々の暮らしが豊かになるにつれて、家庭燃料が、薪炭から化石燃料にとって替わり、しだいに山林の間伐や下草刈り、落ち葉かきなどの里山整備や維持管理が行われなくなった。そうして放置された山林は、ゴミの不法投棄などによって荒廃し、里山の持つ多面的な機能も損なわれてしまった。急激な産業構造や生活様式の変化により、農林業従事者の人手不足・高齢化が山林の荒廃を加速させている。</p> <p>水・みどりといった環境資源を守り、市民の保健、休養、教育の場としての自然文化資源を子どもたち次世代へ引き継いでいくためには、里山の再生、保全及び活用が大切である。では、私達はこの貴重な里地里山の保全に何ができるだろうか。</p> <p>私たち「土屋里地里山再生グループ」は、こうした状況に危機感を抱く地域住民や土地所有者が集まり、平成21年7月に結成された市民活動団体である。</p> <p>かつて耕作を行っていた農地は、一面背丈ほどの篠竹や下草、雑木に覆われ、田畑の区画は大きく変貌し、水路も壊れ、山際から流れ出た湧水は、農地を縦横無尽に走り、湿地と化していた。以後、現在まで会員の手作業による①雑木林の復元及び保全のための篠竹や下草刈り、間伐や倒木の除去作業、②水源の整備、ため池の作成、③障害者団体や平塚市料理飲食業組合連合会との協働による遊休農地で小麦の耕作（「湘南ひらつかカオリ麵」の原料となるニシノカオリとして小麦粉の提供）④小学生と保護者を対象とした里山の昆虫（アゲハ蝶）飼育講習会の実施、⑤間伐材を利用した湿地帯への木道の設置作業、⑥市街地住民との交流を目的とした農作物の収穫体験会の開催等様々な活動を実施してきた。</p> <p>平成21年4月、土屋・吉沢の全部（1,215ha）が神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例（平成28年4月施行、以下「県条例」という。）に基づき「土地所有者や地域住民の主体的な活動により里地里山の保全等が図られると認められる地域」として市長の申出により神奈川県知事の選定を受けた。</p>

この地域内にある当活動団体は、土地所有者と協力して里地里山の保全等を促進するために土地所有者と5年間の活動協定を締結した。

平成21年10月27日には、県条例に基づき、神奈川県知事から同活動協定の認定を受け、同年から神奈川県里地里山保全等促進事業（認定協定活動団体支援事業）として、神奈川県から補助金の支援を受けている。この補助金の県が認める経費は、①鎌、刈り払い機、チェンソー等の資機材購入費や、②請負等によらず自ら行う農林地の保全・再生に要する経費（例：農作物種苗代、農薬代、肥料代、機械消耗品代、機械付属品代（工具、チェンソーの刃）、機械リース代、機械損料、植栽樹木の代金、油脂代、ひまわり・コスモス・蕎麦等景観植栽代、作業指導者への謝金及び旅費、活動団体構成員の傷害保険料、通信運搬費、作業時の飲料水・弁当代・調味料代等）の保全・再生費用である。

平成23年度は、前記①は1団体あたり5年間で200,000円を限度とされており、平成21・22年度で限度額に達したため要求はなし。②の農林地等の保全・再生に要する経費は、山林・農地の活動フィールドの面積に応じて補助されるので、定額を要求し、③体験教室、講習会、見学会、交流会、調査等の活動に要する経費として、神奈川県に50,000円（補助率1/3）を要求している。これを含め総額377,000円となっている。

なお、当活動団体が神奈川県から受けている補助金には、休憩所、トイレ、連絡道や散策道等の整備に係る費用（以下「簡易な拠点施設整備」という。）は、県内自治体や活動団体の要望があったものの毎年ゼロ査定され、さらに平成22年4月に補助要綱が改正され、簡易な拠点施設整備は削除されたためこれらの補助はない。

*土地所有者への支援や不法投棄されたゴミの撤去費用は、同補助の対象外である。

こうして、県の補助金を受け、この荒廃山林・農地の保全・再生活動を行ってきたが、活動に欠くことができない「通路整備と水路の再生」、「駐車場とトイレ整備」は、未だ着手できていない。この課題を解決する手法として「グランドワークの推進」を提案した。

今後は、湧水を活用した淡水真珠・シジミの試験養殖を始め、田畑で収穫した地元食材を利用した料理教室などの開催、地元小学生との生き物観察会の開催など、一年を通じ野外活動の場所として子どもたちや地元大学生による生物多様性研究等、山林や谷戸田で自然環境体験、学習の場として利用できるフィールドの整備を目指している。

市民・NPO・企業・行政・活動団体等が、手を携えて「環境再生とまちづくり」に取り組み、地域総参加の活動にしていきたい。また、地域資源の再生は、コミュニティービジネスにもつながるはずである。この事業の完成により、再生農地での『農業体験』や里山での子どもたちの環境教育や生き物観察会等の開催が通年可能となり、多くの市民の皆さんに潤いのある緑の景観や憩いの場として活動エリアを提供できる。具体的には、以下の事業を通して市民サービスは格段に向上する。

- ① 野草等を含む農産物利用の料理教室や特産品作りの開催（現在・桑の実ジャム・桑シロップ・桑の実ジュース等を試作中）
- ② 農業後継者の育成と環境教育の実践
- ③ 都市間交流のイベント等の開催
- ④ 地域文化の発掘と継承及び里山関連書籍の出版
- ⑤ 再生農地等の土地利用に関する新事業の研究開発
- ⑥ 広報活動の確立

②-2
成果目標

《里山保全活動の成果目標》

「土屋里地里山再生グループ」は、土地所有者をはじめとする地域住民や土屋小学校等多様な主体との協働によりワークショップを開催し、『豊かな土屋地区の里地里山の自然環境や生活

<p>(目標値)</p> <p>成果目標を記入してください。数値で表せる場合は目標値も記入してください。</p>	<p>文化的を次世代に引き継ぐ』ことを目標とし、以下の活動目標を策定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 雑木林の復元及び保全—萌芽更新に必要な除伐や倒木の除去、篠竹や下草狩りや落ち葉かき等を実施し、農地は、耕作可能な状態まで復元し、その状態を維持し、山林は、落ち葉かき、薪割り、下草刈り、萌芽更新を行い、水源涵養等の機能を有し、落ち葉、薪等の木質資源の採取が可能な状態を維持する。雑木林面積:4,683㎡ 2 坊の脇谷戸の水路、水田の復元及び維持管理—(復元1):耕作放棄された水田を復元する為、雑木の撤去や浚渫を実施。(復元2):ため池、水路、田んぼの水口の復元を実施。(復元3):田んぼに水をはれるよう畦の修復と作業道の復元を実施。(維持管理)畦の草刈、泥上げ作業等 田面積 6,093 ㎡、畑:2,816 ㎡ 3 土屋小学校等と連携した生き物調査—土屋小学校や地元の大学と連携し、坊の脇跡の蛍の観察会や田んぼでの生き物調査を実施。 4 地元の食材を使った料理教室、農産物の収穫体験—野菜などの地域農産物が、面的な広がりが少ないため、都市住民との交流活動を推進する。
<p>③事業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>「グランドワークの推進」の事業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境教育セミナー、体験教室、環境教室の実施 青少年・一般の方を対象にした環境教育セミナーや、子どもたちを対象にした体験教室、環境教室を里地里山フィールドにおいて実施する。 2 里地里山エリアを活用したイベントの実施 里山文化祭・収穫祭など里地里山の自然環境や生活文化を活かしたイベントを実施し、地域内外の交流活動を推進する。 3 駐車場の整備 フィールドに接する民地(土屋850番1、地目:山林241㎡)に砂利を敷設して駐車場とし、全長約165m・幅6尺(約1.82m)の土木・農業用機械の搬入路、参加者用通路を造成する。通路は、山林及び農地の畦畔を通る予定である。 <p>2 水路の整備</p> <p>(1) 水路整備では、当初自治会が農水産課へ直接要望する方法を選択した。しかし、里山保全活動フィールド内の農地であっても会員でない農地があるため、全ての人が水路整備に同意するとは限らない。これは、相続等で所有者が世代交代し、里山の再生、保全に無関心な地権者がいることを考慮した所以である。</p> <p>水源傍らのため池から最終柵まで約300mあるが、谷戸のため池から会員の田、畑に水を引く仮設の導水パイプを140m敷設することとした。</p> <p>(2) 間伐材を用い市民活動団体の手作業(素掘り)による開渠型水路敷設が農水産課から提案されたが、素掘り工事による市民活動団体の負担が大きいため合意できなかった。当初の市民活動団体からの要望は、径150mmの塩ビ管を120m敷設する予定だったが、現地視察をした担当課からは、現地の水量、最終柵の排水能力、一団の農地の水路として整備を考慮するならば、管径が細すぎる。500mm以上のU字溝が望ましいとの意見があったが、前述の理由により、仮設パイプによるものとした。</p> <p>水路整備は、農業と里山保全事業と一体性を確保するなどの努力が必要となることから、市民活動団体は、地元自治会や田畑の地権者との合意形成を進めながら、行政も里地里山保全事業に対する市民の理解・周知の支援を図って参りたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 参加者用仮設トイレの設置 水洗トイレは都市計画法、建築基準法等法上「建築物」として規制対象となるため「仮設トイレの設置」に変更した。開発指導課を通じ建築指導課に協議した結果、法規

	<p>制には抵触しない旨回答があった。(8月27日)</p> <p>(目標値)：土屋字坊ノ脇850番1の民地(地目：山林、地積241㎡)に砂利を敷設して駐車場とする。全長約165mの土木・農業用機械搬入路及び参加者用通路を造成する。谷戸のため池から会員の田、畑に水を引く仮設の導水パイプを140m敷設する。</p> <p>*別紙作業工程表を参照</p>
<p>④確認できた役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業員の確保(工事用機械のオペレーター含む) *免許、資格は別紙参照 ○地主との話し合い ○作業の実施 ○特産品の研究開発 ○セミナーの実施 ○広報活動 ○ボランティアの募集 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駐車場や通路の工事資機材費用・工事人件費・工事用小型機械のリース料、講習会講師謝礼、仮設トイレ等必要経費の負担 ○土地の権利関係の確認(登記簿謄本、公図等の請求) ○環境教育セミナー講師の派遣協力 ○事業に係る各部局・関係各課との協議調整 ○広報紙の利用等広報活動の協力
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 次年度以降も双方で実施 2 団体が単独で実施 3 行政が単独で実施 4 事業は今年度のみ予定 5 その他

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容(団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。)

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ツチヤサトチサトヤマサイセイグループ			
	土屋里地里山再生グループ			
②所在地・ ホームページ	〒 神奈川県平塚市			
	ホームページアドレス http://park.geocities.jp/tsutiyasatoyama/			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者 原 安雄 (役職 会長)			
	電 話 (連絡可能な時間帯)			
	F A X e-mail			
	住 所 同上			
④設立年月	平成21年7月 (法人格取得年月 年 月)			
⑤会員の状況	個人= 2.9人 (うち平塚市民 2.6人) 団体= 団体			
⑥活動内容・ 活動実績	平成21年 7月 里地里山の保全、再生と活用を促進させるため設立 10月 下草刈り等、適時実施・農作業通年開始 11月 全国環境フォーラム参加 (秦野市、神奈川県主催) 12月 料理教室・収穫祭実施			
	平成22年 1月 自主事業 (トウミ選別作業・小麦) 5月 用水池の製作 6月 桑の実収穫 (桑の実ジュース、桑の実ジャムづくり) 8月 農産物収穫体験 小学生父母13名参加 *平成21年度活動延べ日数222日 参加延べ人数544名 (農作業含む)			
⑥-2 協働事業と の関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな活動 <input type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 同規模)			
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間= 平成21年7月～平成22年3月 (または見込み)			
⑧前年度の 決算状 況		項 目	金額 (円)	内 訳
	収 入	1 会費	23,000	1,000円×23人
		2 寄付	10,000	5,000円×2人
		3 補助金ほか	321,000	神奈川県補助金 300,000円、謝礼金 21,000円
		4 事業収入	53,000	平塚市飲食業組合連合会
	合 計	407,000		

支 出	1 事務費	33,326	事務消耗品（印刷製本費含む）
	2 旅費交通費	27,680	電車・バス代ほか
	3 通信費等	22,918	会議費・電話・切手代ほか
	4 消耗品費	28,338	ガソリンほか
	5 有償ボラン ティア謝礼	63,000	図書券 3,000 円×21名ほか
	6 食糧費	15,813	弁当、ジュース代ほか
	7 資機材購入 費	157,271	チェーンソー、草刈り機、肥料ほか
	8 講師謝礼	32,000	講習会、調査研究会
	9 雑費	8,356	
	10 次年度事 業費繰越金	18,298	
合 計	407,000		

収入と支出の合計は、同額となるようにしてください。

3 収支予算書

総事業費	3,737,654円
市からの負担金	3,157,034円
神奈川県補助金	377,000円
団体負担分(他の収入等)	203,620円

① 収入

金額：単位円

項目	予算額	内容
市からの負担金	C ¥3,157,034	助成金
県補助金	377,000	
会費収入	¥100,000	年会費及びセミナー等参加費
事業収入	¥73,620	農産物等販売及び手数料
寄付	¥30,000	団体・個人
収入合計	A ¥3,737,654	

② 支出

* 県補助金を含む項目

項目	予算額	市からの負担分	具体的な内容
* 報償費	¥120,000-	¥40,000-	講師謝礼金 @20,000×6名 (*県補助金 40,000円、 団体負担 40,000円)
人件費(整備費用)	¥1,590,750-	¥1,590,750-	土木作業(重機等取扱者) @1,400×6H×2名×35日 = 588,000 土木作業(玉掛け作業等軽量機械専門作業) @1,250×6H×1名×35日=262,500 土木作業(危険の伴う作業) @1,175×6H×3名×35日=740,250
* 有償ボランティア謝礼	¥120,000-	¥0-	イベント時スタッフ責任者分(*県補助金) @1,000×6H×20名=120,000
事務用品費 通信費	¥50,000-	¥0-	用紙 500枚@350円×2ヶ=700 プリンターインク@2,460円×10ヶ=24,600 切手@80円×100枚=8,000 電話@1,670円×10ヶ月=16,700
* 旅費交通費	¥30,000-	¥10,000-	研修会、視察、講習会(*県補助金 10,000円、団体 10,000円)
食糧費(整備費用)	¥57,300-	¥0-	イベント時スタッフ弁当 他@500円×60名=30,000 お茶1本@100円×273本(作業員用)=27,300
* 食糧費(通年)	¥57,000-	¥0-	イベント時スタッフ弁当 他@500円×60名=30,000 お茶1本@100円×270本(作業員用)=27,000 (県補助金)

資材費(整備費用)	¥518,140-	¥518,140-	全長 165m、間伐材 2 m物@850 円×166 本=141, 100 丸太杭 1 m物@220 円×332 本=73, 040 砂利 1 m ³ @4, 000 円×76 m ³ =304, 000
資材費 (水路整備)	¥232,344	¥232,344-	塩ビ管@6, 000 円/4m×36 本=216, 000 円 継ぎ手@454 円×36 本=16, 344 円
機械リース料	¥460,000-	¥460,000-	小型ユンボ 100, 000 円/月×2 月=200, 000 点圧ローラー60, 000 円/月×2 月=120, 000 小型運搬車 70, 000 円/月×2 月=140, 000
トイレ設置費	¥247,800-	¥247,800-	簡易トイレ
広報活動費	¥10,000-	¥0-	ホームページの作成、市の広報紙を活用
消耗品費 (整備費用)	¥58,000-	¥58,000-	セメント@600 円×20 袋=12, 000 ガソリン@130 円×300ℓ=39, 000 工事用ビニールシート@1, 750 円×4 巻=7, 000
* 消耗品費 (通年)	¥72,000-	¥0-	チェーンソー、草刈機の歯、なた、鎌ほか (県補助金)
保険料 (整備費用)	¥31,320-	¥0-	傷害保険@2, 610 円×6 名×2 ヶ月=31, 320
* 保険料(通年)	¥78,000-	¥0-	傷害保険@1, 300 円×6 名×10 ヶ月=78, 000 (県補助金)
雑費・予備費	¥5,000-	¥0-	報告書等 執筆謝礼
支出合計	B ¥3,737,654	D 3,157,034	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市からの負担金 C と支出合計 D は同額となります。

注) 他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

*** 県補助金が、377,000 円、(1/3 補助 50,000 円含む) 団体負担 100,000 円**

平成23年度 実施「事業」提案書

	行政提案型協働事業
○	市民提案型協働事業

団体名 ひらつか防災まちづくりの会

所在地 平塚市 事業担当課 防災危機管理課

代表者 篠原 憲一 担当者 鈴木 健弘

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 確認できた提案内容（団体と事業担当課で確認できた内容を記載してください。）

<p>① 業 名</p>	<p>地域防災活動者育成研修の実施及び防災ニュースの発行</p>
<p>②事業提案内容 「企画提案書」の「② 企画提案の概要」を、 より具体的に詳しく 記入してください。</p>	<p>《講座関連》 地域防災推進のためのひとづくり 1. 地域防災活動者育成研修（初級） 従来行政が行ってきた地域防災活動者育成研修への協力（市民の目線を加える） ※対象：自治会から選出された方々。 ・第1回：講演会（講座）（宿題アンケート） ・第2・3回：実技訓練（防災危機管理課） ・第4回：ワークショップ（アンケート） 2. 地域防災活動者育成研修（中級） ※神奈川大学工学部教授横浜防災塾だるま塾長：荏本孝久教授協力 ※対象：地域活動者育成研修修了者等から希望者を募集（40名程度） ・第1回：防災カルテ（まち歩き予告）（宿題アンケート） ・第2回：まち歩き ・第3回：避難所シミュレーションワークショップ ・第4回：事例に学ぶ / まとめ（アンケート） 《情報提供と共有》 3. 防災ニュース発行（その過程でネットワーク構築を図る） ・自治会向け防災ニュースの発行（A3二つ折りサイズ：年2回） 234地域（+α）×20部×2回 <内容> ・平塚の災害を知る ・平塚の防災体制を知る・過去の災害から学ばれるもの ・地域の課題と工夫を知る ・平塚地域/他市の取り組み紹介（インタビュー） ・21・22年度フォーラム内容/アンケートから得られたヒントの地域還元等</p>
<p>②-2 成果目標 （目標値） 成果目標を記入して ください。数値で表せ る場合は目標値も記 入してください。</p>	<p>1. 地域防災活動者育成研修 参加者が地元に戻り自主防災組織員に対して、災害時の自助・共助活動、平時（訓練時）の実働訓練、まち歩き・ワークショップ等をリーダーとして先導していくことができる。 2. 防災ニュース発行 自主防災組織間の情報の共有化を図り防災意識が向上する。地域インタビュー・編集作業等を行う過程で、ひとづくり・防災ネットワークが構築される。 ※ 21・22年度協働事業関連地域（人）への呼びかけと協力要請</p>

<p>③ 業計画</p> <p>スケジュール・人員配置など、具体的に詳しく記入してください。</p>	<p>《講座関連》 募集案内：危機管理課 企画等の担当：防災まちづくりの会</p> <p>1. 地域防災活動者育成研修(初級) (対象：200名程度)</p> <p>第1回：6月 講話(まちづくりの会担当：講師依頼) 第一回及び4回のイメージ打ち合わせ：3h×4名×1日 宿題アンケート等作成：4h×2名×5日</p> <p>第2回：7月 実技訓練(防災危機管理課担当)</p> <p>第3回：9月 実技訓練(防災危機管理課担当)</p> <p>第4回：10月 ワークショップ(午前/午後：まちづくりの会担当) 企画準備：3h×4名×3日 ・当日：3h×10名×2回 アンケート作成集計+課題抽出：4h×2名×2日</p> <p>2. 地域防災活動者育成研修(中級) (対象：希望者40名程度) (神奈川大学荏本孝久教授/だるま塾協力)</p> <p>第1回：11月 講話(荏本教授) ・打ち合わせ(4回全体の流れを含む) 3h×4名×3日 ・宿題アンケート(作成と集計) 4h×2名×1日</p> <p>第2回：12月 まちあるき(モデル地域を歩く) (だるま塾協力) ・準備：4h×4名×3日 ・当日：6h×7名</p> <p>第3回：1月 ワークショップ (だるま塾協力) ・準備とまとめ：4h×4名×3日 ・当日：3h×7名×1回</p> <p>第4回：2月 事例に学ぶ(講話)/まとめ(アンケート) ・準備：3h×4名×3日/アンケート作成集計：4h×2名×1日</p> <p>《地域への防災ニュース発行(その過程で防災ネットワーク構築を図る)》</p> <p>※ニュース発行 2回予定</p> <p>※4月～ 地域・行政インタビュー/寄稿依頼 取材編集等への協力呼びかけ ⇒ 防災ネットワークへ 協力者募集：企画・インタビュー・寄稿・編集等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画 : 3h×4名×2日 …24h ・取材調査 : 3h×1名×10日 …30h ・記事作成 : 4h×8記事×1日 …32h ・編集レイアウト : 4h×4名×1日 …16h ・印刷 : 3h×3名×1日 …9h (計111h×2回)
<p>④確認できた役割分担</p> <p>協働事業は役割分担が重要です。団体の役割、市の役割を記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各講座の講師依頼と打ち合わせ 2 講座各回の資料作成とまとめ 3 防災ニュース記事の取材・寄稿依頼、編集・構成等 4 防災ニュースへの協力者等の依頼 5 印刷等の作業 <p>(市の役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域への依頼文作成 2 地域活動者研修・防災コーディネーター講座受講者募集/8回の場の確保 3 地域防災活動者研修実技訓練 4 防災ニュース発行にかかる地域への依頼/配布 5 防災ニュース内容の確認 6 各種資料の内容等の確認 7 庁内印刷への協力
<p>⑤事業実施以降の方向性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 次年度以降も双方で実施 2 団体が単独で実施 3 行政が単独で実施 4 事業は今年度のみ予定 5 その他 ()

2 企画提案団体の概要

① 体名	(フリガナ) ヒラツカボウサイマチヅクリノカイ			
	ひらつか防災まちづくりの会			
②所在地・ ホームページ	〒254ー 平塚市			
	ホームページアドレス http:// www.geocities.jp/hiratsukabousaimachidukuri/			
③連絡担当者 及び連絡先	担当者	添田 睦子 (役職 事務局)		
	電話	(連絡可能な時間帯)		
	FAX	e-mail		
	住所	平塚市		
④ 立年月	2003年	8月	(法人格取得年月 年 月)	
⑤会員の状況	個人= 34人 (うち平塚市民 21人) 団体= 団体			
⑥活動内容・ 活動実績	○ 行政提案型事業 21年度、22年度			
	○ 「県相模湾文化ネットワーク事業」の『相模湾アカデミー』に参加 湘南平と江の島でまち歩き実施、関東大震災爪あと検証			
	○ 県教育委員会受託事業：「県立高校災害ボランティア」について西湘高校、足柄高校で実践			
	○ 市との共催事業「災害ボランティア要請講座」実施 各市からの視察受入 (平塚市の要請含む)			
⑥-2 協働事業との 関わり	<input type="checkbox"/> 新たな活動 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の延長 (<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 同規模)			
⑦前年度の 決算期間	前年度決算期間= 2009年 4月 ~ 2010年 3月 (または見込み)			
⑧前年度の 決算状況		項目	金額 (円)	内 訳
	収 入	会費	58,000	@2,000 × 29名
		賛助金	40,000	3企業
		受託事業	1,126,000	県教育委員会、平塚市行政提案型事業
		その他	139,389	謝礼等；視察.講話.ワークショップお手伝い等
		合計	1,363,389	
	支 出	相模湾アカデミー	52,753	横浜での展示会
		関東大震災	20,656	関東大地震の足跡発見事業費
		県事業	1,000,000	西湘高校、足柄高校災害ボランティア教育
		市協働事業	171,945	防災コーディネーター養成、協働事業経費
事務費		19,472	印刷代他	
		98,563	繰越	
	合計	1,363,389		

